

2 教科部会(国語)

1 小学校国語

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査(平成27年4月実施 4・5年生)

(1) 学習状況調査の結果【下野市と県平均との比較】

◎大きく上回っている(5ポイント以上) ○上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)
- 同じ(±1ポイント未満)
▽下回っている(1ポイント以上5ポイント未満) ▼大きく下回っている(5ポイント以上)

国語の全体的傾向(領域別正答率)

県平均との比較	全体正答率	基礎・基本	思考・判断・表現	話す聞く	書く	読む	言語
4年生	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
5年生	○	○	○	○	-	○	○

<考察>

4年生は「話すこと聞くこと」の他は県平均を5ポイント以上上回っている。「話すこと聞くこと」においては9割近い正答率であり、さらに県平均を上回っていることから、概ね良好といえることができる。しかし、「書く」領域では、県の平均正答率を大きく上回ってはいるが正答率が5割に達しない結果であった。

5年生は全領域においてほぼ県平均と同程度の正答率となった。「書くこと」では県平均を0.1ポイント下回り、正答率でも4割に満たない結果となった。

どちらの学年も「基礎基本」や「言語」は高い正答率になった。特に熟語や慣用句の使い方を問う設問の正答率が高かった。昨年度から加わった「思考・判断・表現」では、どちらも県平均を上回っているが、4年生では6割に達せず、5年生では5割を切る結果となった。

今後、複数の資料から考える力、与えられたテーマに対する記事を条件に合わせて書く力を育てる指導が必要と考えられる。さらに、4年生では、お礼の手紙を、適切な順序と言葉づかいで書く力を育てていくことも必要であろう。

(2) 設問別分析 改善策・対策

各学年において達成率の低かった問題、それらに対する改善策・対策は以下の通りである。

4年生

観点別に見ると「書く」の平均正答率が50%に満たなかった。感謝の気持ちを伝える手紙を条件に従って書く問題において、手紙の目的を意識し、適切な言葉の使い方や相手に応じて文末に敬体を使うことができなかった。ほぼ条件通りに書いていても、「手紙」内の言葉や言葉の意味を変えて書いてしまう誤答が多かった。

また、「読み」の問題では、文と文のつながりや場面の移り変わりをとらえることや、表に書かれたメモと文の内容を関係づけて読むことができなかった。

設問7 書くこと お礼の手紙

(略) お礼の手紙を書きましたが、読み返してみても、お礼の言葉を先に書いたほうがよいと気づいたので、文の順番をならべかえることにしました。次の〈注意する点〉にしたがって、文章中の「 」の部分を書き直しましょう。

〈注意する点〉

①「歌を歌ってくれたり、教えてくれたりしたこと」に対するお礼の言葉を、はじめに書くようにしましょう。

②ていねいな言葉づかいになっていない文が一つあるので、正しく書き直しましょう。

(本市正答率：32.0% 県正答率：25.2%)

・条件通りに書いているが、「手紙」内の言葉を言い換えている。

(本市反応率：22.9% 県反応率：18.2%)

・ほぼ条件通りに書いているが、「手紙」内の言葉を意味を変えて書いている場合など。

(本市反応率：21.5% 県反応率：21.8%)

<考察>

〈注意する点〉で指示された事柄は正しく書けていても、それ以外の文について、書き換えてしまったり、転記ミスをしてしまったことなどが誤答の一因として考えられる。

◎学習指導に当たって

低学年では、手紙を書く学習で、書いた手紙で交流する楽しさを感じ取らせる活動を取り入れる。

3年生では、手紙の形式を身に付けさせ、実際の生活場面で活用する言語活動を設定し定着を図る。また手紙に使う語彙を増やすため、次のような資料を提示することも有効と思われる。

前文

学校は、さくらが満開です。(季節の言葉)

いかがおすごしですか。

お願いがあつてお手紙を書きました。

本文

相手に目的が伝わるような文。

相手が読んでうれしくなるような文。

末文

よろしく願いいたします。

お体を大切にしてください。

設問5-(2) 読むこと

この文章を二つの場面に分けると、一つめの場面はどこまでですか。文章中の【1】～【4】の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

(略) 正はそう言うと、ベランダから部屋の中に入ってしまった。【2】

(略) 【3】

でも、次の日、アサガオの葉はもう黄色くかわいていました。

(本市正答率：43.8% 県正答率：40.0%)

<考察>

主人公以外の人物が場所を移動したことを場面が変わったと捉えてしまった、あるいは時間の変化を表す言葉を見落とししてしまったと思われる。

◎学習指導に当たって

場面の移り変わりを捉えるためには、登場人物の行動や会話、情景などを基にすることが重要である。そのためには、各場面の様子を的確に捉えるとともに、場面と場面とを関係付けて読む指導が必要である。また、これまで読んできた教科書の文章を使って時間や場所の変化を表す言葉や文、場面についての描写などを取り上げ、場面がどのように変わったのかを読み取らせる指導をすることが大切である。

5年生

4年生同様、5年生でも「書く」の平均正答率が低く、30%に届いていない。「話す・聞く」「読む」も60%に達していない。「読む」では、目的や必要に応じて、中心となる語や文を捉えること、叙述を基に読むことの正答率が低かった。「話す・聞く」では発表するために調べたことの要点をまとめて書くことができなかった。「言語についての知識・理解・技能」では、正答率が90%を超えるものが多くよく身に付いていた。

設問4-(3) 読むこと

どうしてねばねばに引っかからないのでしょうか?とありますが、その答えを次の図を使って説明します。あとの〈注意する点〉にしたがって説明する文を書きましょう。

〈注意する点〉

- ①「クモが自分の巣に引っかからないのは、」に続く形で書きはじめ、「からです。」につながるように書きましょう。
- ②図の中のアの糸とイの糸のうち、どちらか一つを取り上げ、説明の中で使いましょう。

(本市正答率：15.4% 県正答率：14.6%)

・正答箇所を書いているが、図の中の言葉を用いた説明が不十分。

(本市反応率：26.0% 県反応率：27.4%)

<考察>

問かけ文に対する答えは見つかりやすかったが、説明のための「アの糸」「イの糸」の読み取りができなかったため、意図する解答ができなかったのであろうと思われる。

◎学習指導に当たって

説明された内容を的確に理解するためには、文章の内容や筆者の考えの中心となる語や文を捉えることが重要である。問い・説明(例文)・まとめ等の文形態を押さえたり、説明文に必要な段落相互の関係を関連づけて読み取らせたりすることが大切である。また、筆者の考えや文全体の要旨を簡単な文でまとめることにも十分に組み込みたい。その際、中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりするなどして内容を整理する活動に取り組ませることが必要である。

設問7 書くこと

あなたが、「宿題は、家に帰ったらすぐにするほうがよい」というテーマでこのコーナーを
担当するとしたら、どのように書きますか。上の記事を参考にして、次の〈注意する点〉
にしたがって書きましょう。

〈注意する点〉

- ① 三つの段落に分けて書きましょう。(一段落目は、「なぜなら、」に続けて書きましょう。)
- ② 「たとえば」「だから」の二つの言葉を使いましょう。
- ③ 7行から9行の間(121字から180字の間)で書きましょう。

(本市正答率：37.5% 県正答率：37.6%)

<考察>

自分の考えが明確になるように書けなかったり、3つの条件のうち、1つ以上を満たしてい
ない解答が50%以上を占め、その他にも無解答が11.9%あった。複数の条件に合わせて
作文を書く経験が少ないため、条件を落としてしまったり、条件の中で自分の考えを伝えるよ
うに表現することができないと思われる。

◎学習指導に当たって

「書くこと」では、事柄のまとまりを意識して段落相互の関係や接続語に注意させるよ
うにする。条件として与えられている言葉、表現を適切に使えるように、短文作りや日記、作
文指導で繰り返して指導することが大切である。その際、自分の考えが明確になるように書く
ために必要な相互関係を取り上げて指導することが重要である。

2 中学校国語

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査（平成27年4月実施 2年生）

（1）学習状況調査の結果【下野市と県平均との比較】

- ◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）
 ー同じ（±1ポイント未満）
 ▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

国語の全体的傾向（領域別正答率）

県平均との比較	全体正答率	基礎・基本	思考・判断・表現	話す 聞く	書く	読む	言語
2年生	○	○	○	○	○	○	○

国語全体の平均正答率を見ると、おおむね良好な結果であった。特に、「読むこと」の領域において県の平均正答率を4ポイント以上上回る解答状況であった。「読むこと」の領域においては、設問の内容を理解し、的確な読み取りができていたといえるであろう。

「文法・語句に関する知識」では、単語の品詞について前年度を大きく下回っているものがあつた。また、「歴史的かなづかい」についても、県平均より大きく下回っているものがあつた。

（2）設問別分析

①—1「文法・語句に関する問題」—単語について理解している—

3—（1）『青い空を大きな鳥が自由に飛ぶ。』（形容動詞「自由に」を指摘する問題。）

（市内正答率14.5% 県正答率21.4%）

◇分析

正答率は14.5%であり、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について課題がある。

正解は「自由に」が形容動詞の「自由だ」に活用した形であるが、形容動詞の活用を学習する前の調査の実施であったため、県、市内平均ともに低い結果となった。また、「自由」を名詞、「に」を助詞として区切ってしまい、誤答が多くなってしまったと考えられる。

この結果を受けて、調査後に問題、正答の確認を行い、単語の知識の定着を図るために、反復練習用の「フォローアップシート」を課題として取り組ませた。その後、確認のために同様の問題をテストした。結果は、同調査の時の3倍程度の正答率となった。形容動詞の活用を学習した後であったこともあり、正答率が上がったと考えられる。

①—2「文法・語句に関する問題」—単語について理解している—

平成26年度 同等問題

3—（1）『坂の上に大きな白い家がある。』（連体詞「大きな」を指摘する問題。）

（市内正答率 52.2% 今年度比 +37.7%）

◇分析

理由として考えられるのは、単語に区切ったときにわかりにくい形容動詞を使っていた点が挙げられる。また、直後の3-(2)に形容動詞を指摘する問題があったので、それがヒントとなって、解答できたのではないだろうか。

<考察>

昨年度との「文法・語句に関する問題」に関しては、内容に難易度の面で大きな差があり比較することが困難である。

文法の学習に関しては、単元だけの学習では定着することが難しい。よって、他の領域を学習している時も、折に触れて、文脈の中で単語について復習したり、品詞のはたらきや活用を確認したりする必要がある。

②「文法・語句に関する問題」－歴史的かなづかいについて理解している－

3-(2)『いはく』(現代かなづかいに直す問題。)

(市内正答率54.9% 県正答率73.0%)

◇分析

古語の読み方に関して、「いはく」について出題されたが、正答率は県平均73.0%に対し、市全体の平均が54.9%であった。誤答の理由としては、設問の「現代かなづかい」という言葉の意味を理解しておらず、「現代かなづかい」ではなく、「いはく」の「意味」を書いた誤答が多かった。

<考察>

まず、「歴史的かなづかい」と「現代かなづかい」の言葉の意味を再確認し、「フォローアップシート」を活用して反復練習を行うことが必要である。また、歴史的かなづかいの特徴を確認し、表記と読み方の違いを再確認することが大切である。

◎学習指導に当たって・・・

生徒の日頃の様子を見ると、文章を読む時に、設問で指摘された一線部の前後の文章しか読まない生徒が多く、文章全体から内容を理解して設問に解答することが少ないようである。文章の要旨をおさえて内容を読み取る力を育成するためには、各領域で文章の特徴を踏まえて内容を正確に理解することが大切だと考える。また、日頃の読書指導から多くの語彙に触れ、豊かな表現力を身につけることが必要である。

さらに、他の教科でも様々な資料を使用する場面があるが、その場合、教科書や参考書などから資料を読み取る場面は少なく、映像を使用することが多い。このことから、映像から得られる情報に慣れ親しんでいる生徒たちにとって、文章を読み取る作業は難しくなっているのかもしれない。今後は、国語の授業だけでなく、他教科でも映像からだけでなく、文章から内容を読み取る力を育成する必要があるといえる。情報化社会が進み、自分たちの知りたいことが瞬時に伝わってしまう現代だからこそ、読書に親しみ、文章を読み取る力を形成することが大切であると考えられる。